

国語

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合上、省略した部分があります）。

小学六年生の「おれ」（**拓人**）・**宇太佳**・**忍**の三人はひよんなことから**八十五歳**の**花林神社**の**管理人**田中さんと知り合った。その人柄に惹かれた三人は戦争について田中さんに講演会を行ってもらうことを企画し、当日の運営をつとめた。講演は大成功に終わり、最後の質問コーナーとなった。

「六年一組の黒柳宗也です。田中さんは子どもの頃、軍国少年だと言っていました。いつ考えが変わったんですか？戦争を体験した人は同じようなことをよく言いますが、そんなに急に考えて変わるもんですか。今は戦争に反対なんですよね？」

黒柳の質問に、会場がざわめく。田中さんを批判しているような物言いじゃないか。ムッとして、おれは黒柳をにらんだ。田中さんを見ると、べつに怒っているふうではなくて、むしろ普段以上にやさしい顔だった。

「講演で話したこととa**チヨウフク**するところがあるかもしれません。いいでしょうか」

黒柳がうなずき、田中さんはゆっくりと二度うなずいてから、話しはじめた。

「はい、黒柳宗也くんの言う通りです。わたしが子どもの頃は戦争一色で、b**テキ**をやつつけるぞ、と友人たちとA**息巻**いていました。父を戦争にとられ、兄もお国のために喜んで兵隊に行きました。その軍服姿を見て、かっこいいなあと思ったものです。日本は絶対に勝つと信じていました。わたしが思っていただけではなく、世の中すべてがそういう雰囲気でした。日本は優勢で必ず勝利するから、国民は戦争に協力しなければいけないと、学校の先生からも毎日のように言われていました。その頃のわたしはまだ子どもでしたから、大人や先生が言うことは、無条件で正しいことだと思っていました。

そのうちに父が死んだという連絡が届きました。お国のために命をささげたということで、立派だったねとみんなに言われました。兄からは手紙が届きました。お国のために精一杯戦います。喜市くん、母とチヨをお願いします、と書いてありました。チヨというのは妹の名前です。

兄が亡くなったとき、母は泣いていました。ただただ、しずかにずっと泣いていました。父が亡くなったとき、母が泣いている姿を目にしたことはなかったのですが、隠していただけで、わたしの知らないところで泣いていたのだと思いました。わたしも悲しかったです、やさしかった父と兄が死んでしまったのですから当然です。

それでもまだ日本は、絶対に勝つという雰囲気でした。わたしは、こんなに人が死んでも戦争には勝てるのだなあ、とぼんやり思っていました。父や兄は、日本が勝つために死んだのだから、仕方ないという思いもありました」

田中さんはつかえることなく、ゆっくりとしゃべった。そしてここで、はじめて水を飲んだ。宇太佳が用意した水だ。

「うん。だから、そこからどうして、戦争反対になったのかを知りたいんだよね。田中さんの思考の変化をさ」

黒柳が持っていたマイクで勝手にしゃべった。黒柳とは三、四年のときに一緒のクラスだったけれど、ちよつと変わったやつだ。

「そうですね、黒柳くん。これからその話をしようと思いますよ」

田中さんが穏やかに微笑む。①**マジで菩薩レベル**だ。

「けれど、結局日本は負けました。母と妹は炎に包まれて死にました。生き延びたのは、家族のなかでわたし一人でした」

「それはもう聞きました」

黒柳がまた勝手にしゃべり、まわりから*¹**ブーイング**が起こった。B**すかさず**宇太佳が、黒柳からマイクを取り上げる。

「戦後、世の中はどんどん変わっていきました。教科書は、戦争に関することすべてが黒く塗りつぶされました。帝国主義は姿を消し、民主主義になりました。帝国主義というのは簡単に言うと、武力で国の領土を広げることです」

「それって、戦争ってこと？」

と、誰かが大きな声で言った。

「そうです。力で他の国に攻めることです。民主主義というのは、わたしたちが自分たちのために政治をして話し合って、自由と平等を保障するものです」

「そっちのほうがいいじゃん！」

と、また誰かが言った。マイクを持って宇太佳が走ったけれど間に合わない。でも、マイクなしでもちゃんと耳に届く。みんな、自分の声で田中さんに話しかけたいのだ。

「日本は戦時中とはまったく違う国になりました。それこそ、正反対の主義になったのです。先生たちは泣いていました」

「どうして？」

と、声が飛んだ。

②「あなたは、どうしてだと思いますか？」

田中さんが質問を質問で返した。宇太佳が走って、「どうして？」と聞いた四年生男子にマイクを向ける。近くにいたから間に合った。

「ええっと、戦争に負けたから？」

田中さんがうなづく。

「他に意見がある人いますか？」

忍が呼びかけると、何人かの手があがった。

「戦争中に子どもたちに教えたことが間違っていたからだと思います」

「そうだよ、先生のくせに間違えたことを生徒に教えて、今度はそれをなかったことにしたから、恥ずかしくて泣いたんだよ」

「家族の誰かが戦争で死んだから」

「国のcホウシンがコロコロ変わったから、悔しくて泣いたんだと思います」

「大切な教科書を黒く塗りつぶさなければならなかったから」

「先生なのに、生徒に間違えたことを教えたのが申し訳なかったからじゃないでしょうか」

「国の言いなりになったことが、情けなかったんじゃないかね？」

次々と意見が出て、宇太佳はマイクを運ぶのをあきらめた。

「たくさんの意見をどうもありがとう。わたしは、今皆さんが言ったことは全部その通りだと思います。いろいろな感情が押し寄せてきて、先生は涙したのだと思っています。」

でも当時は、どうして先生が泣くのがわかりませんでした。そこで、わたしは *2心聖寺の住職に聞いてみました。住職はこう言いました。『先生はおそらく、まわりに流されてしまったことが情けなかったのではないかと。わたしはその意味を考えました。まわりに流されたということは、自分の意見や考えを言えなかったということです。わたしは、自分自身をおおいに反省しました。意見を言うどころか、わたしにはなんの意見も考えもなかったからです。なにも考えずに、多くの人が言うことは正しいものだと思います。いました。』

言い訳のように聞こえるかもしれませんが、その場に身を置いているとわからなくなってしまうのです。みんなが同じ方向を向いていると、それが正しいのだと疑うことなく思ってしまうのです。わたしはまわりに流されて、見せかけの正義に惑わされてしまいました。

母と妹が亡くなり戦争が終わったあと、わたしは自分の頭でよく考えて、自分が正しいと思うことをしようと決めました。心の声に耳を澄まして、人間としてどうふるまうのが善きことなのかを一生懸命考えました。それが人として生まれてきた意味だと思うからです。

どんな理由があれ、戦争は反対です。人が人でなくなってしまうんです。人として生まれてきた意味がなくなってしまうんです。こんなに愚かなことはありません」

田中さんの目は真剣で、強い光をdハナっていた。こんな田中さんは、はじめてだった。はっきり言って、めちゃくちゃかつこよかった。

「長くなってしまいましたが、今話したことが、③軍国少年だったわたしが戦争に反対する人間になった理由です」

そこで田中さんは、また水をひとくち飲んだ。

「黒柳くん、質問の答えはこれでいいですか？」

忍が聞くと、黒柳はわかった、というふうにうなずいた。

「では、そろそろ時間なので、次で最後の質問にしますね。質問がある人、誰かいますか？ ええっと、では、その一年生の女子」忍が指名して、宇太佳が手をあげている一年生の女の子にマイクを向けた。

「一年一組の上野朋香です。田中さんの好きな食べ物のことです。わたしも田中さんと同じで、チョコバナナが大好きです。お祭りのときは、必ず買ってもらいます。田中さんもチョコバナナが好きだと知って、うれしくなりました。田中さんは、チョコバナナのどこが好きですか？」

かわいい質問に、会場は笑い声であふれた。ナイス質問だ、一年生！目の付け所がいい。おれは心のなかでほめたたえた。

「上野朋香さん、どうもありがとう。チョコバナナ、本当においしいよねえ。このあいだの五月の花林神社のお祭りのときに、はじめてチョコバナナを食べました。甘くて柔らかくてきらきらしていて、まるでeユメを食べているようでした」

田中さんが答えると、和やかな笑いが起こった。おれは、お祭りのときにチョコバナナを見て、きれいだねえ、と言った田中さんの顔を思い出した。④戦争の話では泣かなかったけど、今のチョコバナナの話にはなぜか視界がにじんで、田中さんの姿がぼやけて見えた。

(椰月美智子「昔はおれと同年だった田中さんとの友情」より)

*1 ブーイング：観客が声を発して不満を示すこと。

*2 心聖寺：花林神社の隣となりにあるお寺。

問1 〓線部a～eのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 ー線部A・Bのここでの意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 息巻いて		B すかさず	
ア	怒り いか で体をふるわせて	ア	機をとらえて間をおかず
イ	やる気に満ち勢い込んで	イ	がまんできずに思わず
ウ	得意 とくいげ 気にいばって	ウ	失敗しないよう丁寧 ていねい に
エ	不安で緊張 きんちよう して	エ	計画通りに手際 てぎわ 良く
オ	楽観的に予想して	オ	びつくりしてすぐに

問3 ー線部①「マジで菩薩レベルだ」とありますが、なぜ「おれ」は田中さんをこのように表現したのですか。解答欄らんに合うような形で、四十字以内で説明しなさい（句読点も一字に数えます）。

問4 ー線部②『あなたは、どうしてだと思えますか？』田中さんが質問を質問で返した」とありますが、この時の田中さんの気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分で答えを説明するよりも、子供たち自身に先生たちが泣いた理由を考えさせる方が論理的な思考力を育はぐむには効果的で、意味があると思っている。

イ 子供たちの問いかけは戦時中の人々の心理に迫る本質的な質問なのですぐに答えることができず、答えを考えるために時間をつくろうと思っている。

ウ 戦争の後にいろいろな感情が押し寄せてきたことによって先生たちが泣いたということを、子供たちにも実感としてつかんでもらいたいと思っている。

エ 子供たちがそれぞれの声で自分に話しかけたいと思っている様子を見て、出来る限り様々な意見を拾ひろい上げることですその声を参考にしたいと思っている。

オ 帝国主義で育った自分と違い、民主主義が根づいた時代に生まれた子供たちが戦時中の人々の気持ちをどのように想像するのかを聞きたいと思っている。

問5 ー線部③「軍国少年だったわたしが戦争に反対する人間になった理由です」とありますが、なぜ軍国少年だった田中さんは戦争に反対するようになったのですか。百字以内で説明しなさい（句読点も一字に数えます）。

問6 ー線部④「戦争の話では泣かなかったけど、今のチョコバナナの話にはなぜか視界がにじんで、田中さんの姿がぼやけて見えたとありますが、この時の「おれ」についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「おれ」は戦争で家族全員を失うというつらい目に遭あった田中さんが、現代においてチョコバナナの美味おいしさに浸ひたることができて、人生で初めて平和を実感していることに喜んでいる。

イ 「おれ」は最近初めてチョコバナナを食べたという田中さんの一言から、戦時中のみならず戦後においても相当の苦勞を強しいられたであろうことを想像し、深い悲しみを覚えている。

ウ 「おれ」は自分たちで企画した講演会によって田中さんの話が会場にいるみんなにしっかりと伝わり、一年生と田中さんの間に世代を超えた強いつながりが生まれたことに感激している。

エ 「おれ」は一年生の女の子の質問に自分の感じたことを素直すなおに伝える田中さんの姿を見て、悲しい戦争を経たことでのじみ出る優しさや強さを感じ、胸が熱くなっている。

オ 「おれ」は田中さんの真剣な話にみんなが耳を傾かたむけてくれたことや、一年生のかわいい質問で会場が和やかな空気に包まれたことに、講演会に注いできた自分たちの苦勞が報むくわれたとほっとしている。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合上、省略した部分があります）。

映画やドラマを倍速で視聴する人が増えているという。^{*}1ネットの動画サービスでは日々膨大な数の作品が配信されているが、ひとつひとつの作品をゆっくり観ている時間はない。それでも話題の作品は見逃したくない。倍速にしたり、興味のないシーンを^{*}2スキップしたりすれば、限られた時間で多くの作品が観られる。

時間をかけずに効率的にポイントだけ押さえたいという欲求は、いまにはじまったことではない。昭和の時代から、速読術の本をはじめ「この一冊で〇〇がわかる」といった本は人気だった。当時すでにビデオの再生速度のコントロールはできたそうだが、画質や音質が極度に^{*}3劣化した。それが現在の動画サービスでは、映像や音の乱れもなく再生速度を変えられるようになった。そうした技術の進歩が倍速視聴の広がりを加速させている。

倍速で再生しても、せりふがなくなるわけではないし、ストーリーが変わるわけでもない。たくさんの映像に目をおさなくてはならない人にとっては、ありがたい機能だろう。

だが、映画やドラマはせりふとストーリーだけでできているわけではない。風景をずっと映しているシーンやせりふのないシーンもある。なにも話していなくても、その沈黙の〈間〉をおして、登場人物の内的世界を伝えようとしている場合もある。①倍速視聴は、そうした〈間〉をそぎ落してしまう。

①、どういうことが起きるのか。それは音楽を倍速で聴くようなものかもしれない。倍速で聴いても、演奏されている楽器の種類や歌詞の内容、曲のaコウセイなどはわかる。でも、それはもはや音楽ではない。なぜ、そういえるのか。音楽のもっともだいたいな要素であるリズムが崩れてしまうからだ。

人には気に入ったリズムを感じると、自然とからだを使って^{*}4同期（シンクロ）しようとする習性がある。足を踏み鳴らしたり、上体を揺らしたりするように、それはほとんど無意識にからだに起きる反応だ。その同期は、感情や心に浮かぶイメージにも及ぶ。

^{*}5ライブでは、観客同士がシンクロして同じ感情を共有するような現象が起きる。そうした経験は音楽のだいじな要素だ。

②、映画やドラマで、そうした同期を引き起こすものはなにか。それはせりふやストーリーではなく、息遣いだったり、沈黙だったり、せりふとせりふの〈間〉だったり、風景描写だったりする。そうした〈間〉の存在が、視聴者のからだを、登場人物の内面や、作品の世界観とシンクロさせる経験を生み出す。

たとえば、ある人物が水平線の彼方を長い時間無言で見つめていて、その水平線だけが映りつづけているシーンがあるとすれば、視聴者もまた、その人物に視点を重ねて同じ時間をかけて、水平線を眺める。そうやって他者の内面を内側から経験する。

倍速視聴にもなれてしまうと、そのような〈間〉や沈黙による表現が、間延びした退屈なものに感じられるかもしれない。作品によっては、沈黙や〈間〉に、言葉にならない重要なメッセージが記されているものもある。だが、倍速で視聴する人の数が増えていけば、映画やドラマをcハイキュウする側も、倍速やスキップをしても支障のない作品を優先的に提供するようになるかもしれない。

倍速視聴の背景にある「むだな時間や労力をかけず、効率的にポイントだけを押さえない」という欲求が、人と人との関係に及ぶと、どうなるだろう。

^{*}6SF作家の星新一の^{*}7ショートショート集『ポッコちゃん』の中に②『肩の上の秘書』という作品がある。設定は近未来。その時代にはだれもが肩に秘書代わりにロボットのインコをのせている。

このインコは自分の主人のしゃべった本音を、敬語表現に直して、社交辞令やお世辞をまじえて言葉にしてくれる。同時に、相手のインコが話すまわりくどい言い回しを短く要約して伝えてくれる。人と人とは直接言葉を交わさず、それぞれのインコをおして会話するのである。

この作品の中に^{*}8セールスマンと主婦がやりとりするシーンが出てくる。セールスマンがある商品を取り出し「買え」とつぶやくと、インコが「きょうおうかがいしたのはほかでもございません。このたび、当社の研究部が、やっと完成いたしました新製品をお目にかけようと思ったわけでございます」などと礼儀正しい^{*}9セールストークにいいかえる。

それを聞いた主婦のインコはひと言、主婦の耳元で「買え、と言っています」とささやく。主婦が「いらないわ」とつぶやくと、インコが「うちでは、とてもそんな高級品をそなえるほども余裕が、ございませんもの」といった^{*}10婉曲な断り文句にいいかえる。それを聞いたセールスマンのインコは耳元で「いらないそうだ」と要約する。「そこをなんとか」とセールスマンが食いつくと、インコは「でもございましょうが、こんな便利な品はございません」とさらに熱をdオびたトークを展開する。それを聞いた主婦のインコが「ぜひ買え、と言っていますよ」とささやく。主婦が「うるさいわね」というと、インコは「主人がまだ帰ってまいりませんので、いまはちよつと、きめかねるんですの」「本当に残念ですわ」という。セールスマンのインコがそれを「帰れとき」と要約する。あきらめたセールスマンが「あばよ」というと、インコは、「さようございますか。ほんとに残念でございます」とていねいな別れの挨拶を述べる。

半世紀以上前に発表された作品だが、いま、こんなアプリがあったら^{*}11需要がありそうだ。まわりくどい話や、まとまりのない話

からむだな部分を省いて、要約して伝えてくれる。㊦、感情的にならず、相手を傷つけずに返答してくれる。人と話すのが苦手な人には役立ちそうだ。現代の*¹² AI技術を使えば実現可能だろう。

しかし、ロボットインコには伝えられないものもある。語られた言葉を要約しても、その中に本当に伝えたいことがあるとはかぎらないからだ。㊧、ふだんの会話では、とりとめのないむだ話をしているうちに、ふいに「私がいいかったのは、こういうことだった」と気づくことのほうが多い。

③ ③ いったい、「むだ」とはなんだろう。私たちがむだと判断してしまうものは、本当に不要なものなのだろうか。

話とはぶが、みなさんは小学校や中学校の思い出というところ、どんなことを思いだすだろうか。運動会のこと、修学旅行のこと、だれかを好きになったことなど、人によって浮かんでくる思い出はさまざまだろう。だが、肝心の授業の内容を細かく思い出せるだろうか。学校は勉強を教わる場所だ。だが、私の場合、授業で先生がどんな話をしてたのか、ほとんど思い出せない。覚えているのは、友だちとふざけて怒られたこととか、午後の授業にさしこむ西日のまぶしさとか、先生の着ていたジャージに*¹³ 継ぎがあたりていたなど、授業の内容とは関係のない、どうでもいいことばかりだ。

それらは勉強をするという学校の目的からすれば「むだ」なことともいえる。だが、そうした「むだ」によって私たちの記憶の大半は形づくられている。だれかと会話をしても、会話の内容は数日すれば忘れてしまうかもしれない。あとになって思いだせるのは、そのときの相手の声の調子や表情、その日の天気、かかっていた音楽などの背景だったりする。

「むだ」とは、いわば効率性から外れた部分である。いいかえれば、目的からも意味からも解放された領域だ。しかし、じつは、その「むだ」こそが自分だけの人生の経験となり、e コミュウのものの見方や感じ方を育てる。自分がたしかにそこにいて、なにかを経験したというあかしは「むだ」の中にある。

一方、効率性とは、たいていの場合、自分以外のだれかの都合に合わせるためのものだ。学校の勉強についていくため、世間に遅れをとらないため、他人に迷惑をかけないため、自分のために効率性を求めているつもりだったのに、じつはまわりの都合に急かされていただけだった、ということもある。

人生でなにが「むだ」で、なにが「むだ」でないかは、だれにもわからない。むだだと思っていたことが、あとになって、とてもいいなことだったと気づくこともある。長い目で見れば、どれだけ多くのむだとつきあってきたかが、人生の豊かさにつながることもある。

(田中真知「風をとおすレッスン」より)

- *1 ネット：インターネットの略。
- *2 スキップ：一部を省略したり、順番を飛ばしたりして先に進むこと。
- *3 劣化：品質や性能などが低下して、以前より悪くなること。
- *4 同期（シンクロ）：一致すること。
- *5 ライブ：劇場やコンサートなどでの生演奏。
- *6 SF作家：科学の発想をもとにし、未来社会の人間を描く空想的小説を書く作家。
- *7 ショートショート：短編小説をさらに短くした小説。
- *8 セールスマン：個人の家に出向いて商品の購入をすすめる人。
- *9 セールストーク：物を売るとき、客の心をとらえる効果的な話術。
- *10 婉曲：はつきりとした表現をさけて、遠回しに言う様子。
- *11 需要：あるものを必要として求めること。
- *12 AI：人工知能。
- *13 継ぎ：着物や布の破れたところを直すための布地。

問1 線部 a のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 一 マ に入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい(ただし、同じ記号は二度使えません)。

- ア さらに イ つまり ウ すると エ とくに オ では

問3 線部①「倍速視聴は、そうした〈間〉をそぎ落してしまう」とありますが、筆者は映画やドラマにおいて〈間〉にはどのような効果があると考えていますか。六十字以内で説明しなさい(句読点も一字に数えます)。

問4 ―線部②『肩の上の秘書』とありますが、筆者はこの作品を引用することでどのようなことを言おうとしているのですか。
その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア くだな会話がなくなることによって、自分の気持ちを相手に率直に伝えられるようになるが、相手の気持ちを推し量って話すことができなくなってしまうということ。
- イ AI技術によって会話が代行されることで、人を傷つける言葉づかいは少なくなるが、言葉のやりとりを通して自分の気持ちに後から気づくという効用がなくなってしまうということ。
- ウ くだな会話がなくなることによって、時間を有効に使うことができるが、逆に相手に話をする機会が減ったために人と関係を深めることが苦手になってしまうということ。
- エ AI技術によって会話が代行されることで、感情的に主張することはなくなるが、人の気持ちを考えずに自分のことばかりを考える身勝手な人間を生み出してしまうということ。
- オ くだな会話がなくなることによって、用件だけを伝えて済ませることが多くなるが、言い忘れに気づいて、後から話さなければならぬことが増えてしまうということ。

問5 ―線部③「いったい、『くだ』とはなんだろう」とありますが、筆者は現代を生きる私たちにとって「くだ」はどのようなものだと考えていますか。本文全体をふまえて解答欄に合うような形で、百字以内で説明しなさい(句読点も一字に数えます)。

問6 本文の内容に関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者は、AI技術が発達して、昔から多くの人たちが望んでいた、時間をかけずに効率的に要点だけをつかむことができるようになったことを喜ばしく思っている。
- イ 筆者は、映画やドラマ、音楽を楽しむ時に効率性を求めることで、世間話や人間関係にまでも同じように効率性を求めることになってしまっている状況を心配している。
- ウ 筆者は、映像制作に関わる人たちが今後の倍速視聴の広がりに合わせて、視聴者が倍速やスキップをしても楽しむことができる作品を作るかもしれないと述べている。
- エ 筆者は、会話を苦手とする人たちのために、アプリ開発をしている人が、直接言葉を交わさずに思いを伝えられる商品を開発していないことに疑問を感じている。
- オ 筆者は、学校の授業の内容とは関係のないことばかり覚えているという事実を通して、私たちはくだなものを自然と記憶する能力を備えているということを指摘している。

三、に入る最も適当な三字熟語を次の語群からそれぞれ選び、漢字に直して答えなさい。

- 1 最近は何相場がしている。
- 2 初めての取り組みだから、採算をしている。
- 3 花火やプールは夏のだ。
- 4 この本は多年の研究のだ。
- 5 このテストは、本番に向けたになる。

(語群)

ドガイシ シキンセキ ランコウゲ フウブツシ シュウタイセイ